

第1回 新桂沢ダム モニタリング部会 議事概要

開催日時	令和4年10月13日(木) 13:00~15:00
開催場所	幾春別川ダム建設事業所内会議室
出席者	岩崎委員、大原委員、岡村委員、加納委員、玉田委員、中井委員、 ○松井委員、眞山委員 計8名(欠席:池田委員) (○:部会長、敬称略、五十音順)
<p>1. モニタリング部会の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設立趣旨(案)、規約(案)、運営要領(案)を新桂沢ダムモニタリング部会として了承する。 <p>2. 部会長の選任</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松井委員を部会長に選任する。 <p>3. 議題</p> <p>(1) 議題1 『新桂沢ダム環境保全への取り組み』(環境レポート)の概要(資料-5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後は、選択取水の実運用の中で、水温・水質等のモニタリングを行い、必要に応じて運用ルールを見直していくことが重要である。 <p>(2) 議題2 これまでの環境への取り組みの実施状況(資料-6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水質は、工事による影響の他、気象条件や流況にも影響を受けるものであり、定期水質調査結果から工事による評価を行うことは難しいため、評価の表現方法を工夫したほうが良い。 ・動物の環境保全措置の評価結果の表現について、抽象的な表現となっており、どのような結果だったのか分からないため、表現方法を工夫した方が良い。 <p>(3) 議題3 モニタリング計画(案)(資料-7)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後のダム管理・運用に、部会での審議結果を反映していくことが重要である。 ・モニタリング調査計画(案)では外来種が侵入した際にどのような対策をとるのがわからない。モニタリングの対象にするかは別として、外来種への対策・体制を検討していただきたい。 ・「景観形成ハンドブック」は作成されてから数年が経過しており、ダム周辺の環境が変化しているため、現状を踏まえて、視点場整備計画の検証と見直しを行う必要がある。 ・モニタリングは、既存の河川水辺の国勢調査結果を有効に活用することは問題ない。ただし、今後のモニタリング部会において、これら既存調査も含めた調査結果を報告してほしい。 ・R4年4月から環境基準の項目が大腸菌群数から大腸菌数に変更となった。しばらくの間は両項目をオーバーラップさせて調査したほうが良い。 ・無水区間のモニタリング・評価について、維持放流による無水区間の解消による効果として、魚が戻ってくると、それを捕食する鳥も戻ってくることが期待されるため、評価の際に留意すると良い ・今後の知見として活用するためにも、移植場所の環境を詳細に記録していただきたい。(当日欠席のため、事前に頂いた意見) <ul style="list-style-type: none"> ・モニタリング調査計画(案)を新桂沢ダムモニタリング部会として了承する。 	